

世界の仲間たちがつなぐ架け橋

世界大会

大会は在サンフランシスコ日本国総領事館の山田淳総領事など、現地関係者を来賓に迎えて行われた。各国国旗と拳士の入場による開会式のあと、競技の部、発表の部に分かれて各国から選抜された拳士らによる演武が次々と披露された。発表の部では、障がい者の部、ファミリーや高齢者の部、そして所属国の異なる拳士で組むインターナショナルの部、論文の部など特色のある種目も設けられた。繰り広げられる力いっぱいの演武には、国やチームを越えて称賛の声や拍手が送られ、どのコートも少林寺拳法らしい心温まる光景が見られた。



会場のサンマテオ・カウンティ・イベントセンター

大会の合間にはアトラクションがあり、サンフランシスコ太鼓道場のメンバーによる和太鼓の勇壮な響きが会場の人々を魅了した。閉会式では、前回大会のあとに設立20周年を迎えたスウェーデン、イタリア、ポルトガル各連盟に表彰状が、また、WSKO理事のインドラ・カルタサスミタ氏、青坂寛氏に特別功労表彰が、そして大会を主管したアメリカ連盟の平山勝也会長(大会実行委員長)に感謝状が、宗由貴WSKO会長からそれぞれ贈呈された。

また、次回世界大会の開催地が日本であることが発表され、たすきとなる少林寺拳法世界連合旗が、宗由貴会長から一般財団法人少林寺拳法連盟の川島一浩会長へと手渡された。

開会式



鎮魂行

競技



会場の様子

